

野端遺跡

大阪府教育委員会
平成18年7月31日

はじめに

能勢町は大阪府の北端に位置し、摂津・丹波の山々に取り囲まれて小盆地が散在する地形で、府内でも数少ない自然に恵まれた町です。

この町内の北東部の山内地区で、東西に走る府道の歩道設置工事が計画されました。工事予定地には周知の野端遺跡が所在するため、教育委員会は土木部（現都市整備部）と協議を重ね、発掘調査を実施することとなりました。その結果、奈良・平安時代の遺構・遺物が検出されるなどの成果を得ることができました。本調査報告が地域史解明の貴重な資料を提供したものと考えております。

調査に際しては、池田土木事務所能勢出張所はじめ能勢町教育委員会、地元の方々のご協力をいただいたことに感謝の意を表するとともに、今後とも文化財保護行政に変わらぬご理解とご協力をお願いする次第です。

平成18年7月

大阪府教育委員会 文化財保護課長 丹上 務

例 言

- 1、本書は大阪府教育委員会が大阪府土木部より依頼を受けて、文化財保護課が担当実施した一般府道亀岡能勢線歩道設置工事に伴う発掘調査（05060）の報告書である。
- 2、調査は現地における発掘作業を平成17年12月から翌18年2月まで実施し、内業整理作業を同年4月より行ない、7月に終了した。
- 3、出土遺物の写真撮影は、有限会社阿南写真工房に委託した。
- 4、本書の執筆・編集は文化財保護課主査辻本武が行なった。
- 5、本書は300部作成し、一部あたりの単価は294円である。

第1章 位置と環境

野端遺跡の所在する山内地区は能勢町の北東部に位置し、大阪湾に流入する猪名川の源流である田尻川上流の四方を山塊に囲まれた小盆地である。

当地区およびその周辺は数多くの遺跡が知られている。

縄文時代では早期から晩期までの土器が出土した地黄北山遺跡（24）があり、「能勢町史」等に報告されている。

弥生時代になると前・中期の倉垣遺跡（19）が著名である。高知県産と考えられる前期の土器が出土し、中期の堅穴式住居や方形周溝墓が発見されている。横町遺跡（27）では生駒西麓産胎土の簾状文土器、稻荷社遺跡（3）では中期の壺・甕・磨製石劍等、暮坂遺跡（18）では有柄式石鐵の出土が報告されている。

古墳時代前期では、溝や堅穴式住居内から高知県西部産を含む多くの古式土師器の出土をみた倉垣遺跡（19）、堅穴式住居を検出した唐竹遺跡（7）がある。

前・中期の古墳は確認されていないが、後期になると町内でも群を抜く数の古墳が築造される。大貝谷古墳群（12）、弥五郎谷古墳群（13）、円山古墳群（28）、篠口暮坂古墳群（17）などがあり、その大半は横穴式石室であるが、木棺直葬の可能性を有するものもある。

飛鳥時代では、竈内に支脚が良好に残存する堅穴式住居を検出した倉垣遺跡（19）がある。

奈良・平安時代では、綠釉陶器や製塙土器の出土が報告される倉垣遺跡（19）、山内池尻遺跡（10）、阪尻遺跡（9）の各遺跡がある。

中世で特記すべき遺跡として、備蓄銭出土地（14）がある。1953年に偶然に発見されたもので、正確な出土地点は不明である。15世紀の丹波焼の甕の中に約1万1千枚の古銭が納められていた。現在個人蔵となっている。



第1図 周辺の遺跡

第2章 調査の成果

1、 調査に至る経過と調査区の設定

野端遺跡は、かなり以前に琥珀製勾玉が採集されたことによって発見され、周知された遺跡である。『大阪府文化財地名表』では「古墳が開墾されたか」と記されている。この勾玉は現在能勢町教育委員会の所蔵となっている。

1996年度に山内地区で農業基盤整備事業が計画された。これに伴い本府教育委員会が試掘調査を実施したところ、当遺跡の隣接地で遣構・遺物が検出された。これによって当遺跡の範囲が拡大されることとなった。

今回の調査は府道の歩道設置に先立つもので、そのために現道路に沿って細長い調査範囲となった。当初は5ヶ所の調査区を設定して、東から1、2、3……区と名づけた。しかし地元からの要請によって水路、進入路、水道管で調査できない部分が生じたので、さらに分割した調査区となった。この場合は、1区東、1区西、3区東、3区西……という調査区名とした。

2、 基本層序

調査区が延長230mの範囲にあるため、1～2区と3～5区とでは層序が異なるものとなった。

1区西半部では表土①②下即ち地山であるが、東半部で地山が急に下がり、厚い黒色粘土層③が広がる。これは盆地中央にかつて存在した池あるいは沼の自然堆積土と思われる。2区では表土と地山の間にぶい黄褐色土層④があるが、近現代の遺物が出土する層である。(第7図)

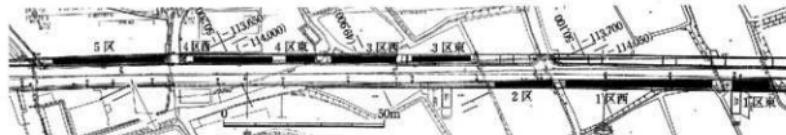
3～5区においては、耕土⑤および床土⑥、灰褐色土⑦を除去すると黒色の遺物包含層⑧が広がる。3・4区の包含層は厚さ20cmほどであるが、5区では60cmほどになる。5区は厚い包含層にもかかわらず遺物量が少なく、またその層の上半部から出土するのがほとんどである点で、



第2図 野端遺跡位置図



第3図 野端遺跡発掘調査区



第4図 調査区位置図（括弧内数字は日本測池系）

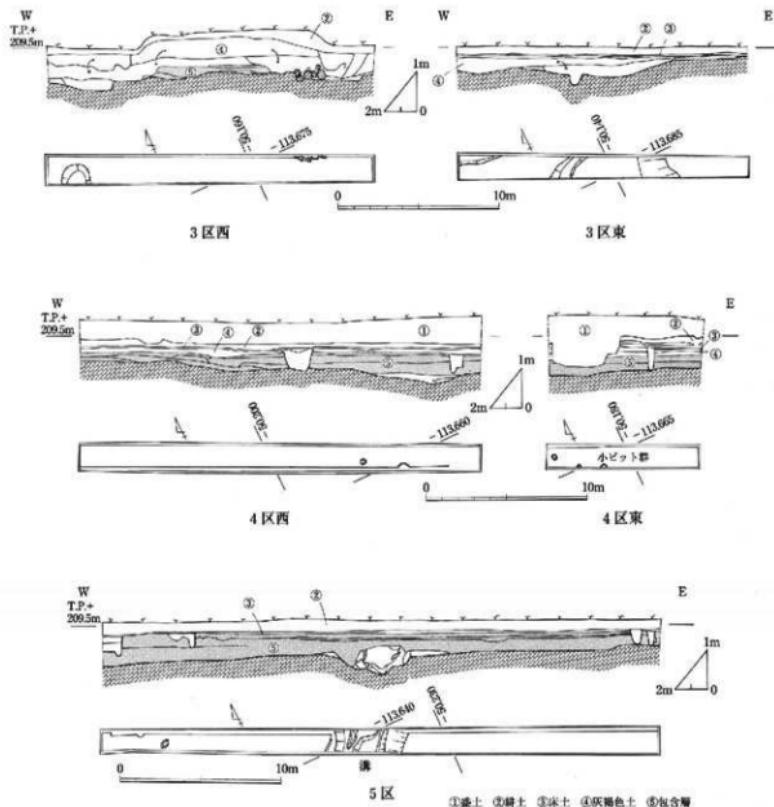
3・4区との違いを見せていく。(第5図)

地山は明黄褐色～灰白色疊混じり土で、岩盤層が風化・軟化したものであろう。

3、遺構

小ピット群

4区東の西半部で、3つの小ピットを発見した。検出面はT.P.+208.5mの地山面である。各ピットとも径0.4～0.5m円形を呈し、深さは0.3mを測る。1.5mの等間隔にあるが、一直線に並ばないので建物跡かどうか不明と言わざるを得ない。埋土は明オリーブ灰色土ブロック混じりの黒色粘質土である。柱根の痕跡は見当たらず、遺構内から出土遺物はなかった。しかし直上の包含層から遺物が出土しており、時期は奈良・平安時代と考えられる。

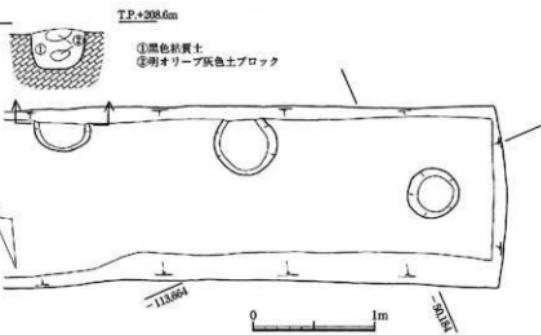


第5図 3～5区平面・断面図(網目が包含層)

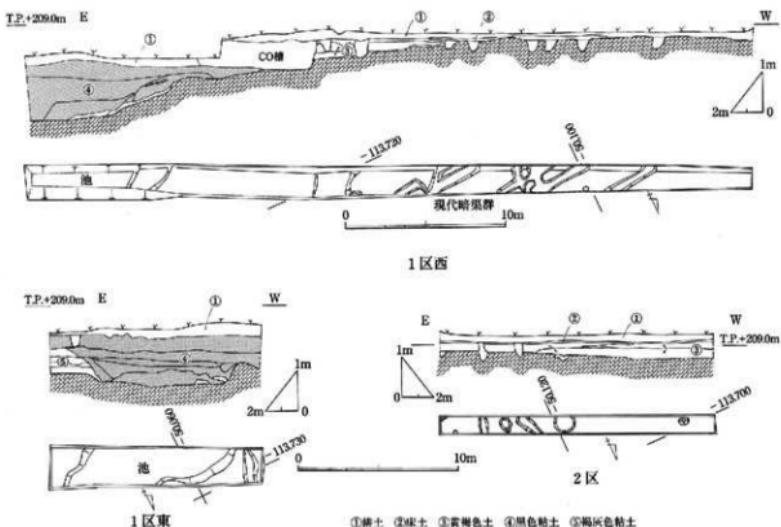
なお4区西の東半部にも小ピット状の遺構が見られたが、これは木の根が残存していたところから人工的なものではないと判断した。5区西端で検出したピット状遺構も同様であろう。

溝

5区中央で溝を検出した。ただし底に凹凸があるので、水を流す溝としていいのか若干疑問が残る。規模は幅4.5m、深さ0.4mを測る。方向は検出した範囲では北東—南西であるが、狭小の調査区であるので確実でない。埋土は黒色土に明黄褐色の大きな地山ブロックが放り込まれるので、その天端は遺構検出面より0.2m高いレベルとなる。出土遺物は土師器の細片があるのみであった。時期は包含層を除去した面での検出であるところから、奈良・平安時代であろう。



第6図 4区東のピット群



第7図 1～2区平面・断面図

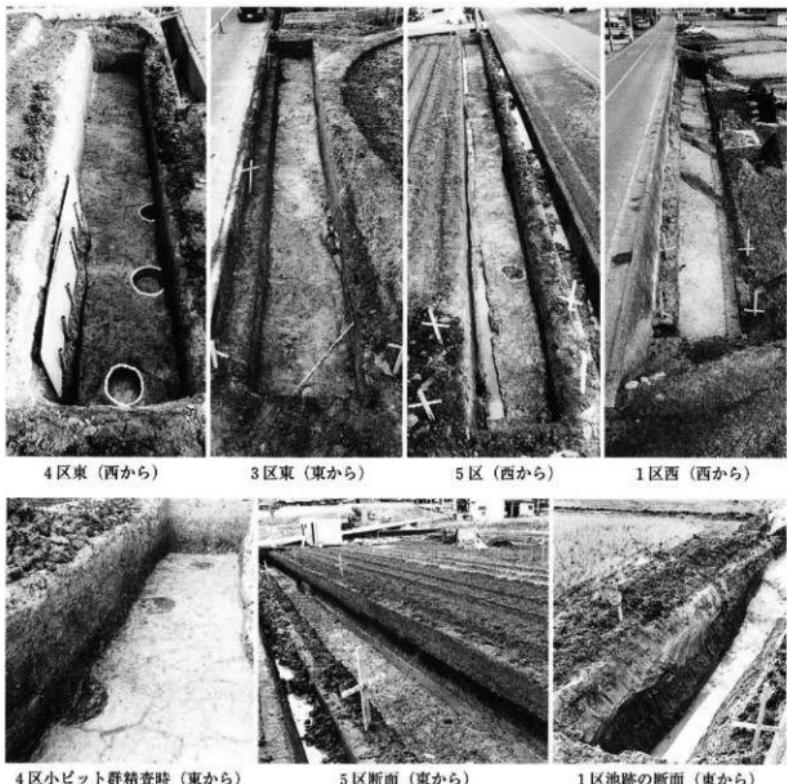
池

1区の東端部で池の一部と思われる落ち込みを検出した。地山面が1.2mの深さで急に下がるものである。埋土は黒色粘質土層であるが、上層は木片等が含まれ、下層は有機物を含まないきれいな土層となる。底面の地山には凹凸が見られる。遺物は全く出土しなかった。

地元の人の話によると、当地区の小盆地の中央部は大昔に池あるいは沼沢地であったらしく、今でも水田の下を掘ると粘土が出てくるということであった。今回検出した遺構はこの話の裏付けとなるものである。

現代の暗渠・落ち込み

今回の調査地は最近まで田畠として機能していたところである。1～2区ではこれに伴う暗渠、耕作痕が検出されたが、すべて現代の遺構というべきもので擾乱として扱った。また3区東・西では地山面の落ち込み等が見られたが、層位および遺物から近現代のものと思われる。



第8図 各調査区写真

4、 遺物

1～13は、3・4区の包含層から出土した。1～7は須恵器の蓋と坏。1は天井部外面端に棱線と沈線が周る。管見において周辺で類例が見当たらない。4は体部最下部に沈線をもつ。台付き壺であろうか。8～11は土師器の壺・坏・高坏である。12は内面全体に煤が付着する土師器。器種が不明であるが、煙出しと考えて図化した。13は棒状木製品で、端に切れ込みがある。他に図化できなかった製塙土器片が数点ある。以上3・4区の出土遺物は主に奈良時代である。

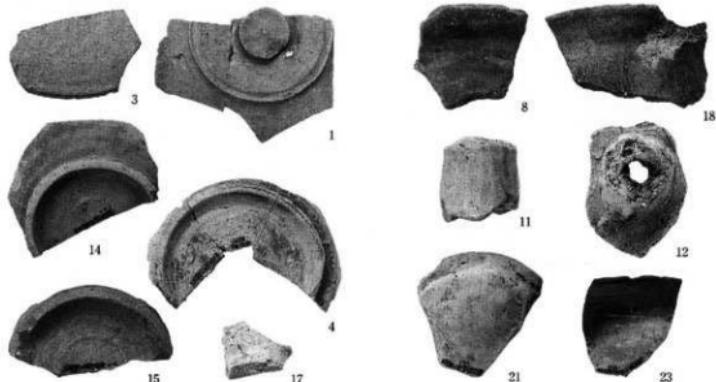
14～23は、5区の包含層から出土した。14～16は須恵器の壺・坏の高台部分。17は糸切底の壺。須恵器だが灰白色を呈する。18～21は土師器の壺・小皿。22はA類、23はB類の黒色土器である。以上5区の出土遺物は奈良時代後半～平安時代で、3・4区より新しい様相を示す。

24～28は、主に1・2区から出土した中世の遺物である。24・25は丹波型瓦器碗。26・27は青磁。28は唐津焼。

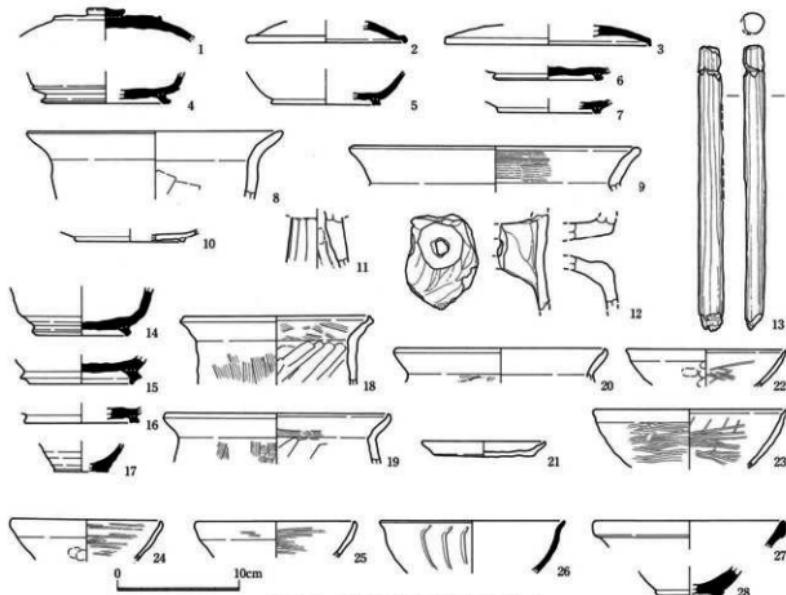
第3章　まとめ

野端遺跡は以前に琥珀製勾玉が採集されたことから発見された遺跡で、当初は古墳が想定された。今回の調査では奈良・平安時代の遺物包含層が見つかり、掘立柱建物の可能性のある小ビット群が検出された。これによって周辺に当時の集落があったことが判明した。山内地区ではこれまでこの時期の遺物の出土が報告されていたが、今回初めて集落跡の存在が確認された。

東半部の1区の東端で、池と考えられる落ち込みが検出された。当地区の盆地中央部分はかつて池であったとされ、今回はその北岸を発見したものと考えられる。



第9図　野端遺跡出土遺物



第10図 野端遺跡出土遺物実測図

報告書抄録

書名	のばたいせき 野端遺跡	
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告 2006-1	
編著者名	辻本 武	
編集機関	大阪府教育委員会	
所在地	〒540-8571 大阪府大阪市中央区大手前2丁目	
発行年月日	平成18年7月31日	
所収遺跡名	のばたいせき 野端遺跡	
所在地	おおさかみよのぐんのせちょうやまうち 大阪府豊能郡能勢町山内	
コード	市町村	27322 遺跡番号 70
経緯度	北緯	34° 58' 15" 東経 135° 27' 11"
調査期間	2005年12月～2006年2月	
面積	350m ²	
種別	集落跡	
主な時代	奈良・平安時代	
主な遺構	小ピット群・溝	
主な遺物	須恵器・土器・製塩土器	
要約	山内地区では初めての古代集落の発見	



第11図 野端遺跡採集
琥珀製勾玉（町教委蔵）

大阪府埋蔵文化財調査報告2006-1

野端遺跡

発行 大阪府教育委員会
〒540-8571 大阪市中央区大手前2丁目
TEL 06-6941-0351（代表）
発行日 2006年7月31日
印刷 株式会社 中島弘文堂印刷所
大阪市東成区深江南2丁目6番8号
TEL 06-6976-8761